

事業評価の結果（内容評価項目）

第三者評価の判断基準

福祉サービス種別：保育所
事業所名：聖ヨゼフ保育園諏訪

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。	[取り組み状況] カトリック精神にもとづき、命を大切に、生きる喜びを感じ、共に育ちあうという理念のもとに0才～5才児までの発達段階を考慮して総合的に養護・教育・食育・保護者支援まで作成して体系づけている。子ども一人ひとりを大切にして、経験の中で共に育つ、静と動の保育を行っている。 [改善課題] 保育課程は年度初めに職員で立案しており、定期的な見直しや全職員の周知は確認できない。一人ひとりが能動的に学び、家庭・地域の状況を把握することが期待される。
					■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。	
□ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。						
■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。						
□ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。						
A	1 保育内容	(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。	[取り組み状況] 園舎の周囲は住宅街で近くに公園があったりと静かな環境である。 園舎も南側に面しており、採光も良く、廊下も広く、絵本棚があり、自分達の所持品の衣服などを架けておける十分な広さである。 [改善課題] 園児が主体的に遊べるコーナー、落ち着いて遊べる居場所作りのコーナーなど、子どもの空間への配慮が期待される。 また、トイレの水道などは子どもに合った使いやすい設定を望みたい。
					■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。	
■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。						
■ 9 内装等には、木材を利用している。						
□ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。						
□ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。						
□ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。						
b)	■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	[取り組み状況] 一人ひとりの子どもとスキンシップを大切に、笑顔でやさしく話しかけるように心がけてはいるが、時にはおざなりな対応になってしまう面も見受けられる。 園児には外国籍の子どもも何人かおり、各々の国の習慣など細かく聞き取り、食事などにも配慮するなど、理解しようと努力しており、職員間でも共通理解している。 [改善課題] 子ども達への声かけやイントネーションなど、職員間での共有化が期待される。				
	■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。					
	■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。					
	■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。					
	□ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。					
	□ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。					

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<p>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</p> <p>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</p> <p>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</p> <p>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</p> <p>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</p>	<p>[取り組み状況] 各年齢に対して生活のリズムが身に着けられるように援助・支援し、年齢に応じた発達にそった基本的生活習慣(排せつ・手洗い・衣服の着脱・食事)が自立できるような年間計画とその実施もあり、主体的に行うことができるような働きかけもなされている。 徐々にではあるが、その成長を確認できるのは保護者にとっても得難いものであろう。</p>
		④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<p>□ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</p> <p>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</p> <p>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</p> <p>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</p> <p>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</p> <p>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</p> <p>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていこう配慮している。</p> <p>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</p> <p>□ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</p> <p>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</p>	<p>[取り組み状況] 園の近くに公園が二ヶ所あり、園庭での遊びよりも散歩に行って公園での遊びが子どもにとっては好評である。また、園の近くには畑があり、畑の作物に年長の子どもが年少の子どもに水やりなどの手順を教えるなどの面倒を見る行為もある。また、異年齢交流は週1回の割合で行われている。子ども同士仲間という繋がりが芽生え、年少の子どもが年長の子どもの憧れる姿・思いも感じることができる。この異年齢交流や週1回の縦割り保育は兄弟の少ない家庭が多い昨今、効果は大であろう。 [改善課題] 周辺は各種小売店が建ち並ぶ環境であり、地域社会との交流などを積極的に考えていくなど、基本方針に謳う豊かな体験の場に恵まれている。また、系列の高齢者施設との更なる交流も期待したいものであり、まずはごっこ遊びに役立つ、子どもと各種小売店との交流を深める園児の見学などの企画は期待したい。</p>
		⑤	乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<p>□ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</p> <p>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。</p> <p>■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。</p> <p>■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</p> <p>■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</p> <p>■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</p>	<p>[取り組み状況] 毎日の子どもの生活を保護者が記入(睡眠・食事・体温・排せつ・機嫌)し、園での様子を保育士が記入する「すこやか帳」で子どもの発達の様子を伝えている。また、外国籍の子どもにも分かる様な対応もしている。天気の良い日には戸外遊びを楽しんだり、ダンボールなどの手製の道具を作り、遊びを楽しむ工夫もなされている。 [改善課題] 子どもの状況に応じた各種コーナーなど、保育士の専門性ともいえる保育環境の構成・創作の工夫が更に期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント			
		⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/>	40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	[取り組み状況] 一人ひとりの子どもの様子を見ながら、天気の良い日などは戸外での遊びや、リミックなど身体を動かす遊びを多く取り入れている。アレルギーの子どもには保護者・栄養士・調理員とも連携をとりながら少しずつ克服する事ができている。 [改善課題] 言語での表現が十分でない子が多いので、発達を見ながら個性に応じた保育、遊びの工夫の配慮が必要と思われる。			
	<input type="checkbox"/>			41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。					
	<input checked="" type="checkbox"/>			42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。					
	<input checked="" type="checkbox"/>			43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。					
	<input type="checkbox"/>			44 保育士等が、友だちとの関わりの中を立ちをえている。					
	<input checked="" type="checkbox"/>			45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。					
	<input checked="" type="checkbox"/>			46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。					
				⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)		<input checked="" type="checkbox"/>	47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	[取り組み状況] 3～5才児には異年齢交流保育が毎週1回午前中に行われている。3才児は、基本的習慣が身につく自分の思ったことを伝えられ、体を動かして遊び、ダンスを楽しんでいる。4才児は、集団の中で自分の考えを主張し、ダンスを楽しんでいる。5才児は自分のことを進んで行い、相手の気持ちで考えて行動する。月3回空手の先生からの指導や異年齢児との交流を楽しんだり、キャンプ、運動会などの行事の経験で自信が来ている。 [改善課題] それぞれの活動・目的・成果などが、保護者や地域などに伝わる取り組みが期待される。
	<input checked="" type="checkbox"/>						48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。		
	<input checked="" type="checkbox"/>						49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。		
	<input type="checkbox"/>	50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。							
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/>	51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	[取り組み状況] 障害のある子には担当の保育士が配置されている。保護者と連携を取りながら医療センターの医師から助言を受けたり、保育専門指導員、保健師が来園しての支援、助言がある。 [改善課題] 発達の気になる子への係わり方などの園内研修はしているが、十分な職員間での共有はしているとは言い難い。 また、玄関など、入り口にスロープを設置するなどの設備面の配慮は今後の課題であると思われる。			
	<input type="checkbox"/>			52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。					
	<input checked="" type="checkbox"/>			53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。					
	<input checked="" type="checkbox"/>			54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。					
	<input checked="" type="checkbox"/>			55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。					
	<input checked="" type="checkbox"/>			56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。					
	<input checked="" type="checkbox"/>			57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。					
	<input type="checkbox"/>	58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。							

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント			
		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/>	59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	<p>[取り組み状況]</p> 核家族の家庭が多く、園児の7割が長時間保育の利用者であり、0～2才児と3才以上児に分かれて保育が行われている。子どもの状況に応じて静と動とメリハリをつけての保育に心がけ、6時以降はおにぎりや麦茶の補食を行っている。 <p>[改善課題]</p> 長時間保育を提供する子どもへは、日中保育に比べて活動がより豊かに展開されるよう、通常保育との関連やバランスを視野に入れつつ、教育的配慮を含んだ、より発達の援助となるような内容に工夫することも必要であろう。			
				<input checked="" type="checkbox"/>	60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。		<input checked="" type="checkbox"/>	61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。	
				<input checked="" type="checkbox"/>	62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。				
				<input checked="" type="checkbox"/>	63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。				
				<input checked="" type="checkbox"/>	64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。				
				<input type="checkbox"/>	65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。				
		⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/>	66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。		<p>[取り組み状況]</p> 学校の夏休み中には、園へ来て子どもの様子などを参観している。また、小学校保育園連絡会では気になる子どもについての発達の様子や留意事項などを報告し、共有している。子どもによっては、保育計画の中に就学に向け、食事時間内での食事の意識を持たせるような配慮も行っている。 <p>[改善課題]</p> 保護者にも就学後の不安の払しょくや見通しが持てるよう、家庭と園での共通の保育を明確に伝えていく努力は必要であろう。		
				<input checked="" type="checkbox"/>	67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。	<input type="checkbox"/>		68 保護者が、小学校以降の子どもたちの生活について見通しを持てる機会が設けられている。	
				<input checked="" type="checkbox"/>	69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。	<input checked="" type="checkbox"/>		70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	
				<input type="checkbox"/>	71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	<input checked="" type="checkbox"/>		72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。	
				<input checked="" type="checkbox"/>	73 子どもの保健に関する計画を作成している。	<input checked="" type="checkbox"/>		74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。	
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/>	75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。	<p>[取り組み状況]</p> 毎月、体重・身長測定を実施し、年3回頭囲・胸囲の測定も行っている。また保育計画の中に0～5才児までの発達段階にもとづいて、遊びを通して身体を動かし体力をつけていくプロセスが明記されている。 また、今年度より看護師の配置がなされ、健康状態やケガの対処などの相談も可能となり、保育士の安心につながっている。 <p>[改善課題]</p> 今後、保護者に向けての健康に関する園の方針の周知が期待される。また、SIDSなどの職員の取り組みが行われており、保護者への情報の提供も必要であろう。		
					<input type="checkbox"/>	76 保護者に対し、保育所の子どもたちの健康に関する方針や取組を伝えている。		<input checked="" type="checkbox"/>	77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。
					<input checked="" type="checkbox"/>	78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。		<input type="checkbox"/>	79

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<p>79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</p> <p>80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</p> <p>81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</p>	<p>[取り組み状況] 年2回、6月と11月に内科検診・歯科検診を行い、結果は記録し保護者に伝えている。歯科検診の結果、虫歯があった場合などは、治療が行われたか、また、その結果の確認も行っている。 また、子ども達は食後の歯磨きを自発的に行い、保育士のブラッシング指導もある。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<p>82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p>85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</p> <p>86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</p> <p>87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</p>	<p>[取り組み状況] アレルギー疾患のある子どもに対して医師から指示を得て対応し、保護者と面談し、保育士・栄養士も連携して連絡を密にしている。除去食が必要な子どもに対して配膳台に貼って誤配がないように配膳している。また、調理室では食器も別にして注意深く対応している。</p> <p>[改善課題] アレルギー疾患のガイドラインやマニュアルなど、職員全員が共通理解を得られるような研修を進め、万全な対応と対処が可能となる環境整備が期待される。</p>
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<p>88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</p> <p>89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</p> <p>90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</p> <p>91 食器の材質や形などに配慮している。</p> <p>92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</p> <p>93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</p> <p>94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</p> <p>95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</p>	<p>[取り組み状況] 0～5才時まで、食育が保育計画の中に位置づけられている。また、完全給食であり、3才児以上は食器もニューセラミックの安全な配慮が確認できる。 毎日のメニューはサンプルケースに食材と共に展示され、保護者等が迎えの時にそれを見て食事についての会話もあり、楽しみにしている。また、3歳児以上の給食当番はこのサンプルを見て配膳・盛り付けも行っている。 畑では、トマト・サツマイモ・ナス・キュウリなどを栽培してメニューに加えたり、誕生会、祖父母参観日には一緒に食事の提供も行われている。 献立表、給食便りの発行では季節の食材や行事食の紹介、保護者への献立紹介なども載っている。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<input type="checkbox"/> 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 <input type="checkbox"/> 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 <input checked="" type="checkbox"/> 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 <input checked="" type="checkbox"/> 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 <input checked="" type="checkbox"/> 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>季節感のある食事の提供をしており、行事食や誕生会、お楽しみメニューなどバラエティーにとんだ食事の内容で、残食はほとんどない。</p> <p>祖父母参観にはほうれん草のパンケーキと一緒に作ったりと、食育には力を入れている。</p> <p>この参観日や週1回の調理員・栄養士との食事を共にする機会は、大人との食事のマナーや食事の楽しみ方など、子どもが得るものも大きいと感じる。</p> <p>[改善課題]</p> <p>一人ひとりの子どもの発育状況に応じた食材について、乳児は保護者と離乳についても行っているが、以上児までは手がまわりきらない状態である。</p> <p>地産地消を心がけてはいるが、その方向での更なる努力は必要であろう。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 <input type="checkbox"/> 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 <input type="checkbox"/> 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>毎日、未満児(0~2才)はすこやか帳での往信・返信があり、連携ができています。また、クラスごとの連絡はクラス入り口のホワイトボードである。毎月のクラスだよりで子ども達の様子も伝えられている。</p> <p>[改善課題]</p> <p>全クラスの登園・降園時のホワイトボードの内容が一目でわかる工夫、すこやか帳やクラスだよりの内容についてのルールは必要であろう。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 112 相談内容を適切に記録している。 <input type="checkbox"/> 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>保護者参観、個別懇談会を年に2回ずつ行い、保護者の意向や要望を聞いている。行事の後、保護者アンケートをとって感想など聞いている。</p> <p>[改善課題]</p> <p>アンケートの協力者は、結果などを知りたいものであり、保護者に報告することも必要であろう。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	<p>[取り組み状況] 発達障害と子どもの虐待などの研修には参加している。また、子どもの心身の状態には視診などで注意深く見ている。</p> <p>[改善課題] 虐待対応マニュアルについて、全職員の研修実施は必要であろう。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 <input type="checkbox"/> 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 <input type="checkbox"/> 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 <input type="checkbox"/> 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	<p>[取り組み状況] 保育計画、月案、週案、日誌などを記録して保育の実践の振り返りが行われている。</p> <p>[改善課題] 振り返りの記録等から、次のアクションへと質の向上につながる、継続的にプロセスを重視した取り組みや体制の整備が期待される。</p>